



◀「おokayama Study Tour」の参加者



◀各施設の魅力を話し合ったワークショップ

岡山大学地域総合研究センターは7月12日、留学生が日本人学生と一緒に後楽園と岡山城を巡り、魅力や改善点を話し合う「おokayama Study Tour」を開催した。

留学生、日本人学生、ボランティア・スタッフら計49人が参加。5チームに分かれ、説明案内の表示内容や施設の利便性を確認するなど、熱心に視察した。ワークショップでは各施設の魅力や改善点を話し合い、「西洋にはない竹に見入った」「難しい日本語の説明が多い」「外国語の説明が少なくない」など、留学生ならではの意見や、「後楽園と岡山城の新しい発見ができてよかった」などの感想が寄せられた。

留学生の視点で岡山の魅力再発見

「おokayama Study Tour」開催



せられ、最後に荒木勝副学長より修了証を受け取った。ツアーは文部科学省留学生交流拠点整備事業の活動の一つで、自治体や岡山コンベンションセンターと協働で実施。国際的な岡山のまちの魅力向上に向けて、今後、さらなる企画を予定している。



▲後楽園を散策する参加者

4 TOPICS 全学部全学科で「国際バカロレア入試」導入

全国の国立大で初

岡山大学は2015年度から、「国際バカロレア（IB）入試」を全学部全学科で実施する。全国の国立大学では初めての取り組みで、国際バカロレア資格取得者を対象に、書類選考のみ（一部の学部を除く）で入学資格を与える。国際バカロレア資格は、国際バカロレア機構が定める国際的に標準化されたカリキュラムを履修し、最終試験に合格した者に与えられる大学入



▲「国際バカロレア入試」の記者会見

学資格。本学は、2012年度から理系4学部と1コースで国際バカロレア入試を導入している。

同入試は、本学の教育目標の一つである「異文化理解に基づいた国際性の獲得」の資質とともに、優れた学力を備えた学生の確保・育成を目指すもの。また、国際バカロレア教育プログラムで育成する「国際感覚に優れた人」や「コミュニケーション能力、問題解決能力、論理的思考力に優れた人」は、本学の教育理念に合致していることから、全学部全学科への拡大を決めた。

「グローバルサイエンスキャンパス」に選定

「真の科学者」育成目指す



「科学先取りグローバルキャンパス岡山」のキックオフ講演会＝8月23日



岡山大学は6月11日、独立行政法人・科学技術振興機構の「グローバルサイエンスキャンパス」に選定された。

地域で卓越した意欲・能力を有する高校生らを対象に、将来グローバルに活躍しうる科学技術人材を育成することを目的に、本年度から開始される事業。全国から26大学が応募し、本学を含む8大学が選ばれた。

本学は、グローバルに活躍できる自立的科学者育成を目的とする中四国コンソーシアム「科学先取りグローバルキャンパス岡山」を地域の教育委員会と連携して構築。科学への優れた才能と意欲を持った生徒を教育委員会とともに見だし、未来の科学者へスムーズに繋がるよう、研究能力とともにコミュニケーション能力、異文化理解を含む科学リテラシー、科学者倫理などの修得を、研究最前線にいる大学教員が責任を持って指導する。さらに優秀なコース生には科学研究論文作成を義務化し、「真の科学者」の育成を図る。



国際センターが「グローバル・パートナーズ」に

7月1日から改組

7月1日から、国際センターが「グローバル・パートナーズ」(Center for Global Partnerships and Education: CGPE)に改組した。岡山大学のグローバル化促進を目的に、新たな事業を展開。留学生の生活支援、教育内容の一層の充実を目指す。

受入・派遣留学生、研究者の問い合わせ先を一元化するため、同所に専用の受付電話を設置。ビザや留学生生活全般の多様な相談に対応する。10月からは、大学院予備教育コース、短期留学受入プログラムを新設。予備教育コースは、本学大学院を目指す学生向けに、学術日本語、研究の手法を指導することで、スキルアップにつなげてもらう。受入プログラムは、海外協定校の学生に日本語、教養教育の授業を提供し、実践的な日本語授業を通じて大学院進学を目指してもらう。

短期交換（EPOK）留学生が、英語で履修できる科目群として、来年度から「現代日本学」を設置。講義に加えて日本の生活文化を体感できるフィールドワークを展開する。

本学の留学生数は、中国、アメリカ、マレーシアなど38カ国461人（5月1日現在）。

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

5 May

22~24日 「情報危機管理コンテスト」で自然科学研究科電子情報システム工学専攻の大学院生チームが最優秀の経済産業大臣賞を受賞

28日 駐日オーストラリア大使・ブルース・ミラー氏の講演会を開催



28日 岡山大学アドバンスドナノカーボン複合構造材料研究開発センターが「ANCSキックオフシンポジウム」を開催

30日 本学歯学部とハイフォン医科薬科大学は、ハイフォン医科薬科大学附属病院に国際歯科センターを開設し、開設記念式典を挙げる



6 June

4日 アフリカ地域の教育関係者から本学で研修を開始

5日 岡山大学病院で歯ツスルフェA12014を開催

7日 環境管理センターが公開講演会「環境と人と化学物質」を開催

11日 科学技術振興機構「グローバルサイエンスキャンパス」に本学が選定

12日 本学学生の海外研修を受け入れる内山工業に感謝状を贈呈

20日 岡山大学病院が厚生労働省国産医療機器創出促進基盤整備等事業に採択

23日 科学技術振興機構「産学共同実用化開発事業」に採択

24日 在日フランス大使館のニコラ・ラコット参事官が森田潔学長を表敬訪問

25日 岡山大学エコナイト2014を開催



6 July

26日 定例記者発表を開催

27日 本学が農林水産省「革新的技術創造促進事業」異分野融合共同研究の研究拠点に採択

7 July

1日 国際センターをグローバルバーナーズに改組

3日 岡山大学病院は、脳死下では国内初となる左右反転肺移植を実施

11日 埋蔵文化財調査研究センターが鹿田キャンパスで行った発掘調査で、鎌倉時代の墓から烏帽子を被った状態で人骨が出土。12日に現地説明会を開催



12日 地域総合研究センターが「おみやげStudy Tour」を開催

14日 URAインターナショナルリサーチセミナーを開催

16日 研究推進産学官連携機構が鹿田本部を開所



18日 教育学部と附属図書館の共催で「池田家文庫」ことも向け岡山後楽園発見ワークショップを開催

25日 岡山大学Alumni(全学同窓会)の東京支部が発足

事務局長は、本学東京サテライトオフィス(東京都中央区)に設置し、会員同士の交流や首都圏への就職を目指す学生へのサポートなどを展開。



7 August

28日 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択。本学を中心に11校による連携で実施

31日 自然科学研究科と環境生命科学研究科は、高校生・大学院生による研究紹介と交流の会を開催

8 August

1日 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員(書面担当)の表彰者発表が行われ、本学から神崎浩環境生命科学研究所長、教授と高井和彦自然科学研究科教授の2人が選出

1日 キャリア開発センター公認のゆるキャラ「いちよ」のブロンズ像が完成し、誕生祭を開催



1日 経済産業省「医工連携事業化推進事業」に、事業実施機関として本学から3課題が採択

8~9日 オープンキャンパスを開催
全17学部 コースで、学部等の概要説明や模擬授業、研究室訪問などを実施。9日の午後は台風の影響で中止となったもの、県内外から2日間、約1万5000人が来学し、学内の雰囲気を感じた。



9日 生殖補助医療技術教育研究センターは、8月~11月の期間、国立大学では初となる胚培養士を対象とした公開講座(全8回)を開催

11日 工学部創造工学センター技術支援部門が「小学生のための工学実験教室2014」を開催

20日 文部科学省「大学教育再生加速プログラム」のテーマ(入試改革)に採択

研究・臨床成果

■大学院医歯薬学総合研究科の片野坂友紀助教と成瀬恵治教授らのグループは、メカニカルシグナルを利用して心臓の構造や機能を維持する仕組みを世界で初めて解明。「Nature Communications」に掲載。(5月・臨時発表)

■資源植物科学研究所の池田啓助教授らのグループは、日本列島のみならず高山植物ツガケラが、北極圏に分布する近縁種と異なる系統であることを明らかにした。英国の植物学雑誌「New Phytologist」に掲載。(6月・臨時発表)

■大学院自然科学研究科の高田潤特任教授の研究グループは、酸化鉄がリチウムイオン二次電池の負極材として優れた特性を示すことを世界で初めて発見するとともに、そのユニークな充放電機構を明らかにした。米国の科学雑誌「ACS Applied Materials & Interfaces」に掲載。(6月・臨時発表)

■大学院環境生命科学研究科の岡田賢祐助教らの研究グループは、オオツノコクヌストモドキのメスが戦いに強い大きな大顎を持つオスではなく、脚を使ってメスの体をたたく求愛技術が高いオスを好むことを世界で初めて明らかにした。英国王立協会紀要「Proceedings of the Royal Society B」に掲載。(6月・臨時発表)

■大学院自然科学研究科の岡本秀毅准教授、久保園芳博教授らの研究グループは、「8」フェナセン」と呼ばれる分子の効率的な合成法を開発。電界効果型トランジスタの活性層として用いると、非常に良好なトランジスタ特性を示すことを実証した。Nature Publishing Group が発行する「Scientific Reports」に掲載。(6月・定例発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の藤原俊義教授らの研究グループは、オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質の遺伝子を組み込んだウイルス「テロメスキャン」を用いて、血液からがん細胞の遺伝子変異を高感度に検出する技術を世界で初めて開発。イギリスの消化器研究の科学雑誌「Gut」に掲載。(7月・臨時発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の成瀬恵治教授の研究グループと株式会社メニコンが共同開発したゲルが手術用止血材として有効であることを、大学院医歯薬学総合研究科の木股敬裕教授らを中心とする研究グループが世界で初めて確認。「PLOS ONE」に掲載。(7月・定例発表)

■大学院保健学研究所の飯尾友愛助教、柴倉美砂子准教授、片岡幹男教授らの研究グループは、アロマセラピーに用いられるラベンダー精油にマウスモデルの喘息症状を軽減する作用があることを世界で初めて明らかにした。アメリカの総合科学雑誌「Life Sciences」に掲載。(7月・臨時発表)

■大学院自然科学研究科の見浪護教授の研究グループは、「長時間潜航」作業対応自律制御型水中ロボット」の開発に成功。長期連続航行を要する海底資源探査・回収や海中未確認生物の生態調査等のほか、高級魚等海産物の栽培漁業・中間育成や機雷掃海、人命救助等への利用が期待される。(7月・臨時発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の工藤慎英助教と高柴正信教授らの研究グループは、動脈硬化に関わる脂質代謝異常に歯周病が関連していることを臨床観察研究によって突き止めた。日本の英文歯科学雑誌「Odontology」に掲載。(8月・臨時発表)